

平成29年

壱岐市議会定例会9月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）有人国境離島施策の推進について	1
（2）まち・ひと・しごと地方創生について	2
（3）小中学生の全国大会での活躍について	2
（4）全国離島交流中学生野球大会について	3
2. 災害復旧	
（1）災害復旧事業について	4
（2）農地等災害復旧事業について	5
（3）公共土木施設災害復旧事業について	5
3. 交流人口の拡大	
（1）観光振興について	5
（2）国際交流員の招致とインバウンド推進について	6
（3）壱岐ウルトラマラソンについて	8
（4）壱岐なみらい創りプロジェクトについて	9
（5）ジェットfoilの座席指定化について	9
4. 産業の振興	
（1）農業の振興について	10
（2）水産業の振興について	11
（3）商工業の振興と雇用対策について	12
（4）地域商社事業について	13
（5）テレワークの推進について	13
5. 市民	
（1）壱岐市高齢者福祉計画・第7期壱岐市介護保険事業計画について	14
6. 教育	
（1）教育施設的环境整備について	15
（2）生涯学習・生涯スポーツの推進について	15
（3）心豊かな人を育む芸術・文化の創造について	15
7. 防災、消防・救急	
（1）防災について	16
（2）消防・救急について	18
8. 議案説明	
（1）補正予算について	18
（2）その他の議案について	19
9. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・	19

行政報告

平成29年壱岐市議会定例会9月会議

1. はじめに

本日ここに、平成29年壱岐市議会定例会9月会議にあたり、前会議から本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

(1) 有人国境離島施策の推進について

本法律の施策の重要な柱の一つである雇用機会拡充事業については、2度の事業公募及び壱岐市雇用機会拡充審査会を経て、創業4件13名、事業拡大20件72名、計85名の雇用創出、国の交付金額は1億6千万円となっております。さらに、8月30日まで3回目の雇用創出に向けた事業公募を行い、5件の応募があっており、現在、国に対し、さらなる追加交付を提出しているところであります。

航路航空路運賃の低廉化については、4月から7月までの航路航空路利用者数が全体で280,605人、対前年比21,568人、8.3%の増、その内割引運賃の適用者は93,340人で、全体利用者数に占める割合は33.3%となっており、市民皆様の経済的負担緩和と利便性の向上に繋がっているものと捉えております。

準住民の取扱いについては、市民皆様の扶養親族となっている市外に居住する18才以下の児童・生徒、UIターンを検討する滞在者、お試し移住者、離島留学生、介護福祉士養成校の学生など、国

の方針に従い申請を行っておりますが、引き続き準住民の対象者の拡大について、国・県と協議を重ねてまいります。

なお、国境離島島民割引カードの発行については、8月末現在、4,915の方が申請されております。免許証等での確認による運賃低廉化の適用は、来年3月末までとなっており、来年4月からは、国境離島島民割引カードの提示が必ず必要となりますので、市民皆様におかれましては、早めのカード作成をお願いいたします。

(2) まち・ひと・しごと地方創生について

平成27年10月に策定した壱岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、これまで国の地方創生推進交付金を活用しながら、人口減少抑制のための各種事業に積極的に取り組んでおります。

平成28年度に実施した地方創生推進交付金事業8事業については、壱岐市まち・ひと・しごと創生会議において検証をいただいております。

本年度は、平成27年度から平成31年度までの計画期間の中間年度に当たる重要な年度となります。これまでの実績や有人国境離島法の施行など情勢の変化を踏まえ、現行の施策では不十分な点や足りない点等の課題を捉えた施策の充実を図り、地方創生の事業展開を確実に推進してまいります。

(3) 小中学生の全国大会での活躍について

全国中学校体育大会夏季大会・陸上競技選手権大会が熊本市で開催され、男子走り幅跳びに長崎県代表として出場した ^{まつもと}松本 ^{たいち}汰壱 君が、決勝で自己ベストを更新する6m78の素晴らしい記録で見事

3位入賞、銅メダルに輝く快挙を成し遂げました。

また、神奈川県横浜市の日産スタジアムで開催された第33回全国小学生陸上競技交流大会に、男子4×100mリレーの部で長崎県代表として出場した壱岐ジュニアランナーズの選手の皆さんが、1次予選第2組を3位で突破し、準決勝に進出しました。準決勝では、52秒8のチームベスト記録をマークしたものの第2組で6位となり、惜しくも決勝進出を逃しましたが、全国最高レベルのチームを相手に一步も譲らない走りを見せてくれました。

壱岐の将来を担う子どもたちの健やかな成長は、私の心からの願いであり、今回の全国大会での素晴らしい活躍を大変うれしく思うと同時に、この経験が自信へとつながり、自らを成長させる大きな糧となることを期待しています。

(4) 全国離島交流中学生野球大会について

離島球児の夢舞台「国土交通大臣杯第10回全国離島交流中学生野球大会」通称「離島甲子園」が、去る8月22日から25日まで沖縄県石垣市で開催されました。

壱岐市選抜チームは、第1回戦で開催地の石垣島選抜チームと対戦し、手に汗握る投手戦を展開しましたが、0対1で惜敗という結果でありました。敗れはしましたが、今大会で準優勝に輝いた強豪の石垣島選抜チームを相手に、壱岐市選抜チームは、見事なチームワークと堅い守りで素晴らしい試合を展開してくれました。

本大会の意義は、地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島の中学生が、野球を通して島と島の交流を図り、青少年の夢

づくり、人づくり、また、郷土を思う誇りと心の醸成に寄与することにあります。

この経験を活かし、さらなる夢に向かって、今後の子どもたちの活躍を期待するものであります。

2. 災害復旧

(1) 災害復旧事業について

去る6月29日、そして7月6日と立て続けに2度発生した「50年に1度の大雨」と気象庁から発表された記録的な集中豪雨は、本市に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

災害発生時から、復旧に向けて職員一丸となり休日返上で日夜取り組んでいるところであり、また、職員のみでは健康面、スケジュールの両面において限界があることから、現在、長崎県から土木並びに農林業の各技術職員の人的支援を受けております。

災害復旧事業に係る予算については、先の7月会議において補正予算の議決をいただいておりますが、調査等を行う中で既定予算が不足することから、今回、所要の予算を計上しております。

この度は、大規模な被災箇所等もあることから、単年度での復旧工事が完了せず、複数年を要する箇所もあります。

市民皆様には、通行止め等でご不便を、また、農地農業用施設については、農作物の作付け等において、支障をお掛けすることになりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

(2) 農地等災害復旧事業について

農地 1, 0 4 6 箇所、農業用施設 3 0 8 箇所、林地 1 9 7 箇所、計 1, 5 5 1 箇所の災害が発生しております。

農地、農業用施設については、9月11日から11月にかけて国の査定が実施予定でありますので、査定後、早急に関係事務手続きを進め、復旧工事に着手してまいります。

(3) 公共土木施設災害復旧事業について

国による災害査定は、9月12日の週から10月10日の週にかけて、隔週毎に延べ5回次の査定が実施される予定であり、道路 1 6 2 箇所、河川 2 0 箇所の計 1 8 2 箇所について、現在その査定準備に万全を期すべく作業を進めております。

そうした中に、8月16日並びに26日にも記録的短時間の集中豪雨に見舞われ、新たな災害が多数発生しておりますが、本災害に係る査定は、次回に設定されることとなっております。

査定終了後は、実施設計、国への補助申請等を行い、早期復旧に向けての発注準備に入る予定としております。

3. 交流人口の拡大

(1) 観光振興について

本市における観光客数を推計するうえで参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年1月から7月末までの乗降客数累計は、4 0 2, 8 1 6 人、対前年比 1 0 5. 6 % でありました。

また、本年4月から8月末までの一支国博物館の入館者数は、

49,538人、対前年度113.3%となっております。

昨年は、熊本地震の影響もあり観光客数が落ち込んでおりましたが、本年は、観光客延数で7年ぶりに56万人台まで回復した一昨年を若干上回っており、今後も営業活動など強化してまいります。

修学旅行、教育旅行については、先の6月会議において7年ぶりに5千人台を回復したことをご報告しておりますが、近畿地区については、修学旅行の2年前に方面決定が行われる関係上、平成30年度は熊本地震の影響により、九州方面への修学旅行が、関東または沖縄方面へ流れている状況にあります。平成31年度に向けての対策として営業強化を図る必要があり、8月21日から22日にかけて、近畿2府4県（大阪府・京都府・滋賀県・兵庫県・奈良県・和歌山県）の中学校の校長先生で構成される近畿地区公立中学校修学旅行委員会の13名の方々をお迎えし、壱岐の魅力を最大限に発信する機会を設けることができ、2年後の修学旅行誘致に期待しております。

（2）国際交流員の招致とインバウンド推進について

東京オリンピック開催を控え、国内では国際文化交流の重要性が高まっており、本市においても外国人観光客や市内在住外国人との関わりが増えています。そのため、市民皆様の国際感覚の醸成や異文化の価値観を認め合う開かれた地域社会づくりを推進するため、8月2日から地域振興推進課に国際交流員としてハワイ出身のスエダ・マシュー氏（日系4世）を配置しております。

今後、海外からの訪問客対応やイベント等での通訳や翻訳、市民

皆様や学校などを対象とした異文化理解を目的とする出前講座の実施、外国人観光客の誘客に関する業務など、本市の国際交流やインバウンド推進に向けた幅広い活動を予定しております。

また、国際交流事業として、9月5日から8日まで、自治体国際化協会との共催により、韓国の5つの自治体の観光関係従事者との海外自治体幹部交流協力セミナーを開催し、さらに9月11日・12日には外国メディアを対象として壱岐の魅力を取材していただき、その内容を世界に発信することを目的としたプレスツアーを実施いたします。

加えて、外国人観光客誘客のためのプロモーションとして、福岡在住の欧米人を対象として壱岐の魅力を紹介し、ファンネットワークを構築するイベントの開催や、コスプレ人口も多くSNS効果が大きい台湾を中心にコスプレを通して壱岐の魅力を海外に発信する事業を計画しております。

なお、市内のインバウンド受入体制を整備するため、本年度は観光事業者向けに各種インバウンド講座を企画しており、6月27日には第1回目のセミナーを実施し、好評をいただいたところであります。今後は、インバウンド対応の手引きや多言語表示ツールを作成し、それらの活用を含めた実践セミナーを開催するなど、さらなるインバウンドの推進を図ってまいります。また、市内事業者の受入体制の整備を図るため、事業の一部を補助することから、今回、所要の予算を計上しております。

(3) 壱岐ウルトラマラソンについて

10月21日開催の壱岐ウルトラマラソンの申込みは、8月31日に応募を締め切り、福岡県276人、長崎県139人をはじめ、北は北海道から南は沖縄まで31都道府県から100km421人、50km291人、計712人の皆様からエントリーをいただいております。昨年のエントリー635人と比較すると、77人増えております。

市全体で盛り上げるため、小学生には参加選手への手紙を、中学生と高校生には当日の給水所等の運営に協力をいただき、選手への激励を行うようにしております。また、ボランティアについては、島内外から応募があっており、現在も募集を行っております。

今回、「ギター侍」として有名な^{はた}^{ようく}波田陽区さん、そして、福岡を中心にイベントなどで活躍され人気が高い「サラ忍マン」さんと「くのいちOL娘。」さんをゲストとしてお迎えするようしております。大会当日「サラ忍マン」さんには選手と一緒に走っていただき、波田陽区さんと「くのいちOL娘。」さんには、沿道の市民皆様とともに大会を盛り上げていただくようにしております。

また、昨年に引き続き、レオパレス21様をはじめ、富士ゼロックス様、JTB九州様、大塚製薬様、西日本吉野家様等、多くの企業からご協賛いただき、様々な面でご支援をいただいております。

壱岐全島を舞台としたイベントであり、市としても大会の成功に向け万全の体制で取り組んでまいりますので、関係機関、団体皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

(4) 壱岐なみらい創りプロジェクトについて

市民皆様が中心となり、対話を通じて壱岐の未来を自分事として考える「壱岐なみらい創りプロジェクト」の一環として、東京大学、九州大学のほか、オランダからも大学生が参加し、島内の高校生と協働して壱岐の地域課題をテーマとし、関係者への聞き取り調査や討論を重ね、地域活性化案の提言を行う「壱岐イノベーションサマープログラム」を、7月と8月に7日間開催しました。

今回は、高校生の次世代リーダー人材としての育成、論理的思考能力の開発、将来に対する視野の拡大、郷土愛の醸成等を主な目的として開催しましたが、参加した大学生も壱岐の魅力を大いに感じており、口コミ等の宣伝効果についても期待できるところであります。

なお、今回提案のあった3つの活性化案については、今後、「壱岐なみらい創り対話会」で具体化に向けて検討してまいります。

(5) ジェットフォイルの座席指定化について

去る9月1日に開催した壱岐市航路対策協議会において、九州郵船から、先に要望していましたジェットフォイルの座席指定化についての説明がありました。

この座席指定化については、新システムの更新に合わせ実施され、予約は11月1日乗船から、受付は10月1日開始予定とのことであります。

座席の指定については、病気をされている方等の優先席18席を除く座席が指定となり、電話予約、ネット予約については、乗船日

の1か月前の午前9時から前日まで予約受付が可能とのことであります。また一般団体、ツアー団体、教育旅行については、従来どおり1年前からの予約受付が可能とのことでありました。

詳細については、今後、九州郵船㈱から周知がなされることとなりますが、今後も航路・航空路の充実に向けて取り組んでまいります。

4. 産業の振興

(1) 農業の振興について

今年、梅雨に入り降水量が少なく、農業用ダム・ため池については貯水量が下がり、一部には干害対策を実施する圃場も見受けられましたが、その後、6月29日から30日及び7月6日から7日の2度にわたる集中豪雨により、農地、農業用施設、農作物等に甚大な被害を及ぼしております。

こうした中、水稻については、畦畔の崩れ及び土砂流入による被害が早期水稻、普通期水稻に一部発生しているものの、早期水稻については、平年並みの収量が見込まれております。

葉たばこについては、10月に販売収納が予定されておりますが、冠水による黄化、疫病、一部圃場への土砂流入による被害が発生し、目標とする収量250kgを下回る238kgの収量見込みとなり、加えて品質低下も懸念されております。

畜産については、去る7月7日平戸市で開催された第11回全国和牛能力共進会長崎県代表牛選考会において、本市から17頭が出

品されました。その中で、種牛の部の第3区において、勝本町の^{やまいし}山石^{よしひこ}吉彦様の「かねはる号」が県代表牛に選考されました。

また、肉牛の部においては、第7区で株式会社野元牧場様、第9区では壱岐市農協肥育センター様の肥育牛が選考され、今月7日から開催される第11回全国和牛能力共進会宮城大会へ、本市から3頭が出品されることとなりました。出品者の皆様には、大会まで大変なご苦勞をおかけいたしますが、壱岐牛の名声を一層全国に高める結果となりますようご期待申し上げます。

肉用牛経営における子牛の販売は、全国的な繁殖農家の減少に伴い高値で推移しており、本市においては、平均価格が6月市と比較し、1頭当たり約4万円安の80万4千円となっておりますが、依然として高値での取引となっております。

しかしながら、高齢化・後継者不足等による繁殖牛の飼養頭数が減少傾向でありますので、今後も産地維持のため、繁殖基盤の強化に努めてまいります。

(2) 水産業の振興について

本年4月から7月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年と比較すると、漁獲量は905トンで19.4%の減、漁獲高は7億8千百万円で19.3%の減となっております。漁獲量、漁獲高ともに減少しております。

また、市内5漁協の正組合員数は、平成28年度末で昨年より47名減の940名となっております。漁家及び漁協の経営は大変厳しい状況が続いておりますが、水産業の振興については、今後も、漁

業者皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図りながら、各種施策に積極的に取り組んでまいります。

なお、県営事業による郷ノ浦港、勝本港、印通寺港、芦辺漁港、大島漁港の港湾漁港整備・改修工事に係る地元負担金について、今回、所要の予算を計上しております。

（３）商工業の振興と雇用対策について

去る7月21日にハローワーク及び県との合同で、高校2年・3年生の生徒を対象とした合同企業説明会を開催しました。本年度で3年目となる本説明会は、卒業後の進路選択の参考としてもらうこと、そして、地元就職を促進することを目的として開催しており、本年度は市内13社の企業の参加をいただき、壱岐高・商高の両校から生徒58人の参加をいただきました。毎年、参加企業も増えており、今後も本事業を引き続き実施し、企業への支援等を含め、雇用の確保に全力で取り組んでまいります。

また、8月1日には、一般社団法人壱岐市産業支援機構を設立し、その事業推進部局として、壱岐しごとサポートセンター（通称 I k i - B i z）を立ち上げたところであります。センターの事務所は、壱岐市農協本所向かい側の郷ノ浦町東触551番地3の貸店舗を借り上げ、森センター長をはじめ、副センター長、事務サポートの3名体制となっております。8月19日には、富士市産業支援センター（f - B i z）の ^{こいで}小出センター長 様、岡崎ビジネスサポートセンター（O k a - B i z）の ^{あきもと}秋元センター長 様をお招きし、I k i - B i z オープニングイベントを実施しております。8月

22日から本格的な相談業務を開始し、8月の相談実績30件、9月の相談予約は9月5日現在で37件となっております。

壱岐しごとサポートセンターが、起業創業支援をはじめ、様々なしごとの経営課題等の対応を行い、各種産業の振興、地域の活性化に大きく貢献するものと期待しております。

(4) 地域商社事業について

一般社団法人壱岐市ふるさと商社を8月1日に設立し、本格的に業務を開始しております。事務所については、当面、観光商工課内に配置し、市職員の派遣2名、商社採用職員2名、地域おこし協力隊1名の5名体制で運営しております。

8月には、東京・有明で実施されたジャパンシーフードショーに出展し、商社が取扱う商材のPRを行うとともに、都内の飲食店等の訪問活動も併せて実施しました。商社が納品した食材を実際に提供する飲食店では、お客様との意見交換もさせていただいております。今後も、市内産品の掘り起こし、売り込み活動等を積極的に展開してまいります。

(5) テレワークの推進について

テレワーク推進事業については、地方創生拠点整備交付金を活用し、テレワークセンターの改修及びテレワークセンターを利用する島外者向けの短期滞在型住宅の整備を進めております。

9月29日にテレワークセンターのグランドオープンを予定しており、今後、本施設を活用したIT企業の誘致による雇用の場の確保、仕事の誘致による市民皆様の所得向上のほか、島外からの定住

人口及び交流人口の増加を目指し、島内向けのセミナーや島外向けの情報発信等を実施してまいります。

5. 市民

(1) 壱岐市高齢者福祉計画・第7期壱岐市介護保険事業計画について

介護保険制度については、平成12年度の制度導入以来、3年ごとに事業計画の見直しを行い、本年度は平成30年度から平成32年度までの壱岐市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画の策定年度となっております。

本市においては、策定業務支援の委託先を選定するためプロポーザル方式により審査を行い、6月21日付けで株式会社ぎょうせい九州支社と業務委託契約を締結したところであります。

現在の進捗状況は、平成28年度に実施した在宅介護実態調査の分析と介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施するとともに、計画策定のための基礎的な地域データ及び資料の整理と給付実績の集計・分析を行っております。

今後は、10月初旬に予定している第1回目の壱岐市高齢者福祉計画・介護保険事業計画作成委員会の場で協議し、来年2月までに計画案を策定し、平成30年市議会定例会3月会議に議案として提出する予定であります。

6. 教育

(1) 教育施設的环境整備について

芦辺小学校屋内運動場並びに芦辺中学校校舎の改築工事については、解体及び改築設計業務委託を発注し、平成30年度の工事着工・完成を目途に取り組んでおります。

また、今回、芦辺小学校屋内運動場の解体工事並びに地質調査と、昨年被災を受けた屋内運動場裏側全面の法面対策工事に係る費用を、併せて、芦辺中学校（旧那賀中学校）校舎の解体工事並びに地質調査に係る費用等、所要の予算を計上しております。

(2) 生涯学習・生涯スポーツの推進について

平成29年度長崎県公民館大会壱岐大会を、10月12日・13日の2日間、壱岐の島ホールを主会場として開催し、分科会並びに全体会、講演会等を行います。市内公民館関係皆様の多数のご参加をよろしくお願いいたします。

また、11月25日・26日には、平成29年度長崎県スポーツ推進委員研究大会壱岐大会を、西部開発総合センターで開催します。

何れの大会も、県内各地から多くの皆様の参加が予想されることから、おもてなしの心でお迎えすべく、現在準備を進めております。

(3) 心豊かな人を育む芸術・文化の創造について

劇団四季によるミュージカル公演「こころの劇場」が、平成30年2月5日に小学生高学年を対象として、壱岐の島ホールで開催予定となっております。これは、財団法人舞台芸術センターと劇団四季が、日本全国の子どもたちに演劇の感動を届けるプロジェクトで

あり、壱岐市では過去に2回実施されておりますが、今回は3年ぶりの開催となります。

離島において一流の舞台芸術を鑑賞できることは大変意義深いことであり、この機会を捉え市民皆様にもご鑑賞いただきたいと考えており、壱岐市文化団体協議会のご協力も得て「一般公演」の実施に向けた準備を並行して進めており、今回、両公演に係る所要の予算を計上しております。

7. 防災、消防・救急

(1) 防災について

迅速で的確な災害時における対応を行なうため、各組織・機関と災害時等における応援協定を積極的に結んでおります。

この度、壱岐地区生コンクリート組合と「災害時における消火用水供給応援に関する協定」を締結しました。これは、新潟県糸魚川市で昨年12月に発生した大火災を教訓とし、火災または地震等の大規模災害が発生した場合に、コンクリートミキサー車の積載水で、防火水槽等の消防水利の補水等を応援していただくものであります。

このように地域の各組織や機関の皆様は、災害に強いまちづくりの推進に寄与していただくことは大変心強いことであり、今後も十分連携を図り、災害対策に万全を期してまいります。

次に、原子力防災訓練についてご報告いたします。

玄海原子力発電所での放射能漏れ事故を想定した訓練を9月3日及び4日に実施しました。

今年、国も直接的に参加し、本市を含めた県内4市と長崎県、佐賀県、福岡県の3県で行われ、2日間にわたる訓練となりました。情報収集伝達訓練、住民の避難訓練、誘導訓練、島外への広域避難訓練等を実施しております。

壱岐島内のUPZ圏内（30km圏内）から圏外への住民避難では、特に配慮が必要とされる避難行動要支援者の訓練として、郷ノ浦町片原触の福祉施設「ひまわりの家」の入所者が、芦辺町の壱岐島開発総合センターへの避難を行い、円滑な避難を実施することが出来ました。避難行動要支援者の避難については、避難することにより健康リスクが高まる方々の避難対策が、課題として残っております。

現在、放射線防護施設を三島地区に整備しておりますが、本島のUPZ圏内への放射線防護施設整備についても、関係機関と協議の上、国・県へ要望し、進めていくこととしております。

原子力災害での避難は、UPZ圏内から圏外への避難が基本となっておりますが、本市からの要望により、壱岐市から本土への広域避難訓練を実施しております。

この広域避難について、長崎県の避難時間推計では、全住民の避難完了に壱岐と本土間の定期航路の客船だけでは約5.5日間、近海を航行する客船を含めると約2.2日間とされており、避難時間の短縮が課題と言えます。このため、今回の訓練で実施したように、自衛隊のヘリコプターや艦船の利用も必要となります。

また、勝本港を避難港として利用できるように、大型船の接岸が

出来るような整備を国・県に要望しております。

市民皆様には、あらゆる災害へ自らの備えを行っていただきますとともに、地域における防災力の向上に向け、自主防災組織の結成や育成等について、今後もご理解を賜りますようお願いいたします。

(2) 消防・救急について

今年の夏は全国的な異常気象となり、市内では、8月末現在、23名の熱中症による患者を救急搬送しております。今後も、残暑が厳しいことが予想されますので、市民皆様には、引き続き体調管理に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

先の九州北部豪雨災害で犠牲となられた皆様のご冥福を謹んでお祈りいたしますとともに、被災された皆様へ心からお見舞い申し上げます。本市からは、消防本部より緊急消防援助隊として、消火隊1隊3名及び後方支援隊1隊2名の合計2隊5名をそれぞれポンプ車と指令車とともに派遣し、7月9日に出発した第2次隊から7月25日に帰島した第7次隊まで、延べ17台、30名が緊急消防援助隊として支援活動を行っております。

8. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出しております平成29年度補正予算の概要は、

一般会計補正額	19億7,935万2千円
各特別会計の補正総額	1億662万6千円

となり、一般会計、各特別会計の補正額の合計は、

20億8,597万8千円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

267億7,087万9千円

で、特別会計については、

102億681万9千円

となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、平成28年度各出資法人の経営状況等に係る報告4件、平成28年度財政健全化判断比率等の報告1件、条例の制定・一部改正に係る案件3件、予算案件4件、平成28年度各会計決算認定9件であります。

何とぞ十分なご審議をいただき、適正なるご判断を賜りますようお願い申し上げます。

9. おわりに

以上をもちまして、前会議以降の市政の重要事項また政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年9月7日

壱岐市長 白川博一